



## 平成24年6月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(非連結)

平成24年5月11日

上場会社名 株式会社エーワン精密 上場取引所 大  
コード番号 6156 URL <http://www.a-one-seimitsu.co.jp/>  
代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也  
問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 林 哲也 (TEL) 042-363-1039  
四半期報告書提出予定日 平成24年5月15日 配当支払開始予定日 —  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

## 1. 平成24年6月期第3四半期の業績(平成23年7月1日～平成24年3月31日)

## (1) 経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年6月期第3四半期	1,397	4.0	377	3.0	402	4.9	228	1.2
23年6月期第3四半期	1,343	26.2	366	87.2	383	81.9	225	86.5
	1株当たり 四半期純利益		潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益					
	円 銭		円 銭					
24年6月期第3四半期	15,238.01		—					
23年6月期第3四半期	15,050.54		—					

## (2) 財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
24年6月期第3四半期	7,333	6,866	93.6
23年6月期	7,335	6,724	91.7

(参考) 自己資本 24年6月期第3四半期 6,866百万円 23年6月期 6,724百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
23年6月期	—	0.00	—	6,500.00	6,500.00
24年6月期	—	0.00	—	—	—
24年6月期(予想)	—	—	—	7,000.00	7,000.00

(注)直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 平成24年6月期の業績予想(平成23年7月1日～平成24年6月30日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	1,950	7.8	529	7.4	557	8.1	317	5.2	21,184.05

(注)直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

#### 4. その他

(1) 四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無

② ①以外の会計方針の変更 : 無

③ 会計上の見積りの変更 : 無

④ 修正再表示 : 無

(3) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）

24年6月期3Q	15,000株	23年6月期	15,000株
----------	---------	--------	---------

② 期末自己株式数

24年6月期3Q	—株	23年6月期	—株
----------	----	--------	----

③ 期中平均株式数（四半期累計）

24年6月期3Q	15,000株	23年6月期3Q	15,000株
----------	---------	----------	---------

#### ※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

- ・この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期財務諸表のレビュー手続は終了していません。

#### ※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- ・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する定性的情報 .....	2
(2) 財政状態に関する定性的情報 .....	3
(3) 業績予想に関する定性的情報 .....	3
2. 四半期財務諸表 .....	4
(1) 四半期貸借対照表 .....	4
(2) 四半期損益計算書 .....	6
(3) 継続企業の前提に関する注記 .....	7
(4) セグメント情報等 .....	7
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記 .....	7
(6) 重要な後発事象 .....	7

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、比較的堅調に推移しました。昨年は東日本大震災、タイの洪水などで部品調達不足による国内生産活動の停滞局面がありましたが、急ピッチで復旧を目指し、生産低迷分を挽回するために増産体制を敷いた企業が多く、年後半から量産加工分野において機械稼働率も高まり、機械稼働率の上昇に伴い設備投資の動きも出てきて、昨年末から今年3月の年度末に掛けて設備関連の仕事も動きが出てきました。裾野の広い自動車業界ではエコカー補助金の再設定でハイブリッドカー中心に堅調な売れ行きを示しました。

海外に目を向けると欧州は南欧諸国の財政問題でなお不安定な状態にありますが、米国において負債の整理が緩やかに進んできており、欧州の景気低迷で輸出が減少した中国も国内消費意欲は引き続き堅調で、他の新興国も波はあるものの経済成長率は高水準で推移しています。

日本国内でも海外向けの生産が好調で、また日本企業の海外生産設備増強のため設備・治具の仕事もまとまって出ており、タイの洪水で被災した生産設備の復旧、工作機械の確保なども国内生産堅調の一因となりました。

今後については、4月新年度入りで製造業の一部で様子見から入ったり、欧州の景気動向の先行き不透明感もあり、業種・企業間の好不調の格差が生じると思われれます。新興国の旺盛な需要が世界的に景気を牽引する構図は変わらないとしても、日本国内において震災復興のインフラ整備、住宅などの生活関連設備、火力発電所の増設と自然エネルギーによる発電設備の広がりなど景気にプラス効果と、円高傾向や税制、エネルギー調達コスト上昇など逆に景気にとってマイナス面も存在し楽観できない状況と思われれます。

このような状況のなかコレットチャック部門では、量産品加工が堅調に推移し国内の部品加工も底堅い動きを示したため、前四半期同等の受注水準を確保しました。この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は976,595千円(前年同期比0.9%増)、セグメント利益は490,735千円(前年同期比0.6%減)となりました。

切削工具部門では、量産品加工が堅調に推移したことと、昨年末から年度末にかけて設備などの単品加工の動きが出たことなどから、当部門の受注量も増加傾向を示しました。この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は378,865千円(前年同期比15.5%増)、セグメント利益は86,735千円(前年同期比14.0%増)となりました。

自動旋盤用カム部門では、量産品加工は堅調に推移しましたが、カム式自動旋盤の稼働台数が限定されており、その稼働率に波があり当セグメントの受注は減少傾向を示しました。この結果、当セグメントの第3四半期累計期間の売上高は41,736千円(前年同期比11.5%減)、セグメント利益は17,960千円(前年同期比1.3%減)となりました。

これらの結果、当第3四半期累計期間の売上高は1,397,196千円(前年同期比4.0%増)、営業利益は377,305千円(前年同期比3.0%増)、経常利益は402,084千円(前年同期比4.9%増)、四半期純利益は228,570千円(前年同期比1.2%増)となりました。

セグメント別の売上は、以下のとおりであります。(％表示は対前年同期比)

事業部門別	期別		第21期 第3四半期		第22期 第3四半期		第21期	
	(自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)		(自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)		(自平成22年7月1日 至平成23年6月30日)			
	百万円	%	百万円	%	百万円	%		
コレットチャック部門	967	(124.6)	976	(100.9)	1,297	(116.3)		
切削工具部門	327	(135.5)	378	(115.5)	449	(132.4)		
自動旋盤用カム部門	47	(104.4)	41	(88.5)	61	(96.5)		
合計	1,343	(126.2)	1,397	(104.0)	1,808	(119.1)		

(2) 財政状態に関する定性的情報

(1) 資産、負債及び純資産の状況

(資産)

当第3四半期会計期間末における流動資産の残高は、4,050,537千円（前事業年度末は4,217,872千円）となり167,335千円の減少となりました。これは、未収還付法人税等が47,051千円、仕掛品が17,504千円増加しましたが、現金及び預金が230,945千円、繰延税金資産が12,045千円減少したこと等によるものであります。

また当第3四半期会計期間末における固定資産の残高は、3,283,080千円（前事業年度末は3,118,038千円）となり165,041千円の増加となりました。これは、繰延税金資産が115,672千円、建物及び構築物（純額）が43,140千円減少しましたが、機械装置及び運搬具（純額）が301,885千円、投資有価証券が31,691千円増加したこと等によるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における総資産は、7,333,617千円（前事業年度末は7,335,911千円）となりました。

(負債)

当第3四半期会計期間末における流動負債の残高は、139,234千円（前事業年度末は272,108千円）となり132,874千円の減少となりました。これは、未払金が17,999千円増加しましたが、未払法人税等が141,884千円減少したこと等によるものであります。

また、当第3四半期会計期間末における固定負債の残高は、327,426千円（前事業年度末は339,192千円）となり11,766千円の減少となりました。これは、役員退職慰労引当金が5,340千円増加しましたが、退職給付引当金が17,106千円減少したことによるものであります。

この結果、当第3四半期会計期間末における負債合計は、466,660千円（前事業年度末は611,300千円）となりました。

(純資産)

当第3四半期会計期間末における純資産の残高は、6,866,956千円（前事業年度末は6,724,610千円）となり142,346千円の増加となりました。これは、利益剰余金が131,070千円、その他有価証券評価差額金が11,276千円増加したことによるものであります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

通期の見通しにつきましては、平成24年2月3日発表の業績予想どおりとなる見込であります。

2. 四半期財務諸表  
 (1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成24年3月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	3,597,488	3,366,542
受取手形及び売掛金	415,091	424,394
製品	6,082	7,532
原材料	30,981	29,088
仕掛品	147,657	165,161
前渡金	350	—
繰延税金資産	24,609	12,564
未収還付法人税等	—	47,051
その他	1,722	3,993
貸倒引当金	△6,110	△5,792
流動資産合計	4,217,872	4,050,537
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	732,130	688,990
機械装置及び運搬具(純額)	529,150	831,036
土地	319,337	319,337
その他(純額)	20,366	8,575
有形固定資産合計	1,600,985	1,847,939
無形固定資産		
投資その他の資産	2,094	4,537
投資有価証券	1,328,713	1,360,404
繰延税金資産	184,593	68,921
その他	4,666	4,669
貸倒引当金	△3,014	△3,392
投資その他の資産合計	1,514,959	1,430,603
固定資産合計	3,118,038	3,283,080
資産合計	7,335,911	7,333,617
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	16,204	15,608
未払金	77,382	95,382
未払法人税等	141,884	—
役員賞与引当金	8,850	6,900
その他	27,787	21,343
流動負債合計	272,108	139,234
固定負債		
退職給付引当金	302,542	285,436
役員退職慰労引当金	36,650	41,990

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年6月30日)	当第3四半期会計期間 (平成24年3月31日)
固定負債合計	339,192	327,426
負債合計	611,300	466,660
純資産の部		
株主資本		
資本金	292,500	292,500
資本剰余金	337,400	337,400
利益剰余金	6,191,145	6,322,215
株主資本合計	6,821,045	6,952,115
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	△96,435	△85,159
評価・換算差額等合計	△96,435	△85,159
純資産合計	6,724,610	6,866,956
負債純資産合計	7,335,911	7,333,617

(2) 四半期損益計算書  
第3四半期累計期間

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成22年7月1日 至平成23年3月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成23年7月1日 至平成24年3月31日)
売上高	1,343,061	1,397,196
売上原価	762,867	809,281
売上総利益	580,194	587,915
販売費及び一般管理費	213,785	210,609
営業利益	366,409	377,305
営業外収益		
受取利息	1,394	875
有価証券利息	5,141	496
受取配当金	9,661	11,487
補助金収入	—	10,000
その他	858	1,919
営業外収益合計	17,054	24,778
経常利益	383,464	402,084
特別損失		
有形固定資産除却損	—	22
特別損失合計	—	22
税引前四半期純利益	383,464	402,061
法人税、住民税及び事業税	159,500	63,410
法人税等調整額	△1,794	110,081
法人税等合計	157,706	173,491
四半期純利益	225,758	228,570



(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

1. 報告セグメントの概要

前第3四半期累計期間(自 平成22年7月1日 至 平成23年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	967,940	327,955	47,166	1,343,061	—	1,343,061
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	967,940	327,955	47,166	1,343,061	—	1,343,061
セグメント利益	493,551	76,073	18,201	587,826	△221,416	366,409

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△7,631千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

当第3四半期累計期間(自 平成23年7月1日 至 平成24年3月31日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				調整額 (注)1	四半期損益計 算書計上額 (注)2
	コレット チャック部門	切削工具部門	自動旋盤用 カム部門	計		
売上高						
外部顧客への売上高	976,595	378,865	41,736	1,397,196	—	1,397,196
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	976,595	378,865	41,736	1,397,196	—	1,397,196
セグメント利益	490,735	86,735	17,960	595,431	△218,125	377,305

(注)1 セグメント利益の調整額は、製造部門共通費△7,515千円と主に報告セグメントに帰属しない販売費及び一般管理費であります。

2 セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(6) 重要な後発事象

該当事項はありません。